

3 改善のポイント

POINT 1

- 作業しにくい工程について話し合いました。

等間隔に並べるために、ベニヤ板のガイドを補助具として使ってみました。作業がやりやすくなり、一定の品質のものが出来るようになりました。



POINT 2

- 作業しにくい環境について話し合いました。

机上の道具の置き方について話し合いをしました。利き手によって道具の置き方を工夫することにより作業がやりやすくなることが分かりました。



POINT 3

- 実際の使い方を想定して、製品を開発しました。

実際に使い方を試してみることで、修正箇所が明確に分かりました。製品の配布に向けて、製品の使い方についての掲示を作りました。



難しい工程でしたが、ガイドを使うことで確実に出来るようになり、自分で出来る自信ができました。
自分たちが作った製品を、たくさんの人に使ってもらえると嬉しいです。



4 授業者がわかったこと

- 難しいと思っていた工程が自分で出来るようになり、意欲的に作業に取り組めるようになりました。
- 補助具の使い方などについて、生徒本人の意見を取り入れることで、更に自分で工夫をするようになりました。
- 「うまくできた」という成功体験を重ねることで自信が付き、活発な意見交換が出来るようになりました。



身体状況に応じた作業環境の工夫

改善事例3

<陶芸>

1 授業改善の視点



【Cさん】

指先の動きは得意だけど、材料を持ち上げたり混ぜたりするなど、先生に手伝ってもらわないと自分では出来ないことが多いです。



- 機能的に腕を上下方向に動かすことが難しいので、作業によっては教員が補助する場面が非常に多くなってしまいます。
- 教員の補助する場面が多いので、「自分でやった」という満足感が得られていないのではないのでしょうか。
- Cさんは姿勢管理への配慮が必要ですが、作業に対する意欲は高いので、自分で出来るようにするにはどうしたらよいのでしょうか。



2 専門家からのアドバイスと改善の方策

- 身体状況や、得意な動きに合わせ、机の高さや肘を置く支点を工夫し、作業がしやすいようにしましょう。
- 姿勢を見直す際には、自立活動部の教員や、理学療法士等の外部の専門家のアドバイスを受けましょう。
- 生徒一人一人が得意な身体の動き等に合わせ、作業工程を分担しましょう。

※教員の関わり方

- 生徒によっては、「先生と一緒にやる」ことを当たり前と感じている場合があります。必要な支援を教員に依頼出来るようにしましょう。
- 分業をする中で、生徒同士のコミュニケーション場面を設定しましょう。

3 改善のポイント

POINT 1

- カットテーブルの下に差し込めるテーブルを作成し、上段と下段を使い分けられるようにしました。

上段に肘を置き、下段に作業するものを置くことで、手を上にあげる動作がなくなり、教員が常に介助をしなくても作業が出来るようになりました。



POINT 2

- 型抜きを利用した部品作りを担当しました。



腕を大きく動かして作業をすることがなくなり、生徒が無理することなく一人で部品を作れるようになりました。



POINT 3

- 身体の状態等に応じて、生徒一人一人が得意な作業を分担しました。

得意なことなので、自信を持って取り組むことが出来ました。

自分の役割を意識して生徒同士で協力する言葉かけが出てきました。



型枠を作る担当

実習先でも、指先の動きを活かした作業的活動を頑張り、お母さんもびっくりしていました。必要な支援の依頼を自分で出来るようになり、自信ができました。



4 授業者がわかったこと

- 作業台の高さを工夫するなど、生徒が「作業しやすい環境」を整えることで、生徒が一人で無理なく作業が出来ました。
- 生徒一人一人に合わせた環境を整えることで、常に支援をする必要がなくなり、教員は、生徒一人一人の作業状況を更に把握することが出来るようになりました。



手順が分かり一人で作業が出来る工夫

改善事例4

<紙工（中学部）>

1 授業改善の視点



【Dさん】

牛乳パックを使った「メッセージカード作り」は、色々な工程があるので、次に何をしたらよいか分かりません。



作業学習の内容について口頭で説明



教員が常に横にいて指示

- 全員が同じ経験をして、工程を理解して欲しいと思っていますが、順番待ちや教員の支援が多くなり、「体験」になってしまいます。
- 始業時に、打ち合わせをしていますが、作業が始まると各自に再度説明をしないとイケません。
- 常に生徒の手順の確認や補助が必要で、全体の作業状況や生徒がやりにくさを感じている場面の把握が難しいです。



2 専門家からのアドバイスと改善の方策

- 各工程ともに、「教員と一緒に」行っています。身体状況等に合わせた役割分担をするとともに、補助具を工夫しましょう。
- 打ち合わせ時間が長く、実際の作業時間が30分しかとれていません。毎回同じである作業内容はカード等を活用して生徒が自分で見て分かるようにし、作業時間を確保しましょう。
- 各工程で正しい手順が確立していないので、手順を確立して、「作業手順書」を作りましょう。

※教員の関わり方

- 生徒と教員の距離が近く、生徒が「困る」前に支援をしてしまいます。生徒が「依頼」出来ることも大切な力となります。

3 改善のポイント

POINT 1

- 生徒が見て分かるようにホワイトボードの掲示を工夫しました。

作業工程や分担を説明する時間がなくなり、作業時間を40分としました。



POINT 2

- 分担した作業工程を安全に一人で行うための補助具を工夫しました。



事前に計量してある材料をミキサーに入れます。
タイマーを使って「終わり」を判断できるようにしました。



まひがある右手で紙を支えていると危ないので、自在クリップを使用しました。身体の正面で作業ができました。

POINT 3

- 作業内容を確認できるように、生徒に合わせて写真や絵を利用した個別の手順表を作成しました。

自分で手順や仕上がりの確認をした上で、報告できるようになりました。



自分の役割が決まっているので、次に何を行えばよいのかが分かるようになりました。担当した作業に責任をもってできるようになりました。



4 授業者がわかったこと

- 生徒が「できる（こと）」を生かした分担としたことで、生徒一人一人が役割を意識して集中して取り組めるようになりました。
- 生徒一人一人の身体の動きに合わせた工程の見直しと、手順書を作成することで、生徒が教員に頼る場面が減り、自信をもって作業に取り組めるようになりました。



生徒の活動が充実するための工程の工夫

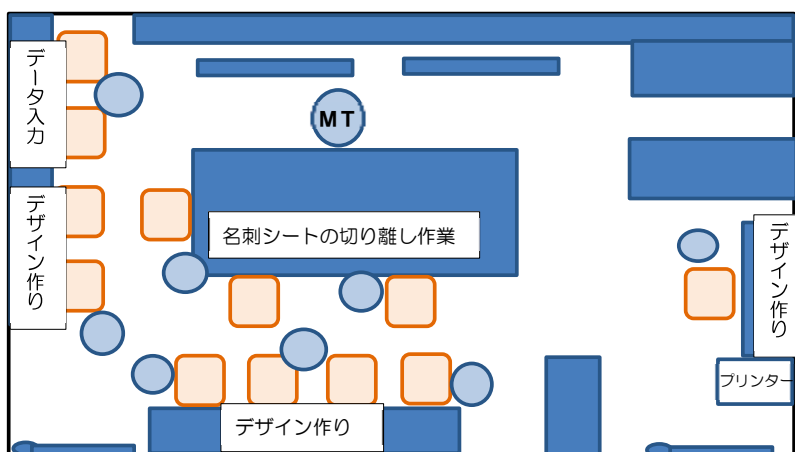
<事務>

1 授業改善の視点



- 名刺作りを分担で行っていますが、名刺のデザインやポスター作りを分担する生徒が多く、納期や仕事への意識がもちにくいようです。
- 生徒の動けるスペースがないので、プリントアウトした印刷物を取りに行くことができません。
- 注文に応じて文字を入力する際、難しい漢字があったりして時間がかかってしまいます。

現状の教室内配置



打ち合わせでは、リーダーの教員がすべての作業分担について説明しています。

2 専門家からのアドバイスと改善の方策

- 入力方法や注文票の管理方法の工夫を行い、文字入力の練習は他教科（情報等）で行うようにしましょう。
- 生徒の動線を確保するように教室環境を見直し、リーダーの教員がすべてに対応するのではなく、全体の指示が出せるようにしましょう。
- 作業分担を見直し、生徒一人一人に十分な作業量を準備するとともに、分担（役割）ごとの場所を分けましょう。

※教員の関わり方

- 生徒は質問などの全てをリーダーの教員に頼っているので、他の教員の役割を明確にしましょう。
- 他の教員は生徒の作業の補助（支援）だけでなく、適切な指示が出せるようにしましょう。